



消防学校 ニュース



令和4年7月号

初任科 校長通常点検

— ついに来た！緊張の一瞬 —



屋内訓練場に全員集合



通常点検開始



校長による厳しい点検



緊張する初任科学生



校長からの訓示

初任科学生が入校して3か月が経過し、この間、毎朝欠かさず教官による通常点検を実施してきました。

通常点検とは、消防活動に際し有効適切な措置をとるよう、人員、姿勢、服装、手帳等の点検をし、その不備の点は整備又は反復訓練して是正するものです。

6月24日（金）、ついに校長による通常点検が実施されました。校長点検は学校に慣れてきた初任科学生にとって大いに気が引き締まる場面です。

初任教育本格化

～基本なくして応用なし～



懸垂降下訓練



ロープ渡過訓練



応急はしご救助訓練



火災調査



英語（めまいがする、家が燃えている等の言い方を取得）



書道（感じる力、集中力を高める）



手話（どうしましたか、助けが必要ですか等の手話を取得）



救急訓練

入校して約3か月座学、実科訓練及び寮生活を通じて、徹底的に必要な基礎教育が行われてきました。

これから本格的な夏を迎え、気温も更に高くなり、厳しい環境下での教育訓練になります。

今後も、学生は「あたりまえ力」はもちろんのこと、自らが「気づき・考え・行動」できるように、教官の厳しい指導を受け訓練に臨みます。

静岡県消防救助技術大会

6月14日（火）、第50回静岡県消防救助技術大会（静岡県消防長会主催）が本校で開催されました。あいにくの小雨の中、県内16消防本部（局）から精鋭が集まり、救助技術を競い合いました。

新型コロナウイルス感染拡大のため3年ぶりの開催となったこともあり、各消防本部（局）とも今回の大会に向けての意気込みには相当なものがありました。

初任科学生は先輩達の技術を目の当たりにしたことで、現在の自分達との技術の差を認識し、県民の命を救うためには、このような高い技術を身に付けていかなくてはならず、そのためには、今まで以上に訓練に全力で取り組んでいかなければならないと、心に誓ったことと思います。



引揚救助



ロープブリッジ渡過



ほふく救出



はしご登はん



ロープ応用
登はん



ロープブリッジ救出



障害突破

初任科学生の任務



プラカード保持

競技掲示板管理



審査表・タイム表回収

任務待機

初任科学生の訓練披露（体力向上体操）



（担当教官から）

初任科学生には、救助大会運営補助のため、プラカード保持、掲示板及び審査表・タイム表回収の任務が割り当てられ、裏方として活動しました。

担当任務以外の空き時間には、各種目に全力で競い合う先輩消防士たちの姿を、羨望のまなざしで見つめていました。

体力向上体操は、縦横の整列状況、息の合った体操、声の大きさを重点的に指導してきました。当日の演技は今までで一番の出来となり、学生たちの成長を感じました。これからの教育訓練も全力で挑み、成長することを期待します。

教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）

消防大学校教育支援 警防科第110期



消防大学校警防科第110期の支援教官として派遣されました。(6月22日~6月24日)



複数隊指揮活動(中隊長)展示



学生にフィードバック



複数隊指揮活動 7時限訓練終了



指揮隊活動図上訓練展示

私が教育支援として指導した内容は、火災性状別の複数隊指揮活動要領と指揮隊活動要領です。

複数隊指揮活動は、中隊長としてのブラインド型実科訓練です。火災指令を受信してからの的確な事前命令、先着部隊の活動内容下命、現着後に火災性状と要救助者位置情報等を瞬時に把握し、消火戦術と救助法の決定、一貫しての的確な複数隊指揮能力向上を目的とした訓練になります。

指揮隊活動要領は図上訓練になりますが、低層火災と高層火災の2種類があります。シナリオはありますが、増隊や部隊運用等は自由に実施できることから能力が問われる訓練になります。

命令は誰でもできますが、指揮は訓練しなければ実施できません。数回の座学や訓練で身につくほど甘くはないことを、学生も身に染みていました。

私が学生として警防科に入校した時も、大変勉強になり多くの「気づき」がありました。今回、支援教官として派遣して頂き、教えることで知識の深い再定着にもなりました。人脈の広がりも得ることができ、大変感謝しています。知識、技術、人脈をしっかりと消防学校の教育訓練に還元したいと思います。

教務課 主査 田島貴俊(富士市消防本部から派遣)

新任教官紹介

～大いなる成長を期待しています！～

今年度、消防学校に新たに加わった4人の教官を紹介します。4人は4月からの慌ただしい中、先輩教官の指導の下、試行錯誤しながら、初任科学生からの影響も受け、業務に取り組んでいます。優秀な教官を派遣していただいている消防本部（局）には、心より感謝申し上げます。

念願の消防学校教官に赴任し早くも3か月。私の人生訓「我以外皆我師」を念頭に、様々な方から教えを受け、日々とても充実しています。教官自らが燃え盛る「炎」となり、初任科学生達の魂に消火できない「心の火」をつける指導者として愛情を持って厳しく指導しています。特に指導したいのが「気づき・考え・行動する」の意識付けです。何事にもなぜ・何のために？（気づき）、それをどうすれば（考え）、そして何をどうするか（行動する）ができる消防人を育てるために、毎日全力で教育指導に励んでいます。

教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）



教官として赴任して早くも3か月が経過しました。

教官としての責任感とやりがいを感じながら日々の業務に臨んでいます。4月初めから担当する座学が始まり、「消防業務の危険性」、「安全管理の重要性」を理解させるため講義を進めてきました。学生には、教育訓練中に気を緩めることなく、事故防止に努めてもらいたいです。

初任科学生は、消防人になるための壁を乗り越えようとしています。私は、学生を後ろから支え、時には前に立ち鼓舞しながら、学生の成長に助力していきます。

教務課主査 仲村 直樹（下田消防本部から派遣）

教官として着任し、初任科学生と共に3か月が過ぎました。

日々成長している学生と向かい合い、消防人としての第1歩となる教育を担う者として初心に戻り決意を新たに毎日過ごしています。基礎知識・技術はもちろんのこと、社会人としての礎を築かせ『人間力』を備えた消防人として所属へ送り出せるよう努めています。

入校される学生の糧となり、学んだ知識を活用し今後の人材育成のきっかけとなるような教育を目指し、刻々と変化する情勢に目を配り、私自身も常に視野を広げ知識技術ともに成長できるよう取り組んでいます。

教務課主査 永田 裕司（菊川市消防本部から派遣）



人事異動で今年の4月から消防学校に赴任し、気づけば3か月が経過しました。これまで体感したことのない緊張感のある中で様々な講義や訓練を目の当たりにし、学生以上に驚きを感じると同時に貴重な経験ができることに感謝しております。

教官という責務を担う上で、初任科生が公務員として、また社会人として職務に臨む姿勢や規律遵守等を理解して修了式を迎えられるよう、指導しています。そして、ここでの経験を糧に、彼らが静岡県で立派な消防士として成長することを期待しています。

教務課主任 高橋 謙一（県職員）

教官紹介 [竹ノ内教官]

※活動服が竹ノ内教官



竹ノ内教官は、駿東伊豆消防本部から教官として派遣され3年目となります。常に沈着冷静であり、物静かですが、幅広い観察眼による鋭い指摘で学生を叱咤し、隠れた闘志で教官をリードしています。～高倉校長と竹ノ内教官との面談から～

校) 3年目の教官として、今年、力を入れていきたい点がありますか。

竹) 伝えられるものは全て伝えたいと思っています。その中で特に災害を未然に防ぐ目的の「予防」の重要性を伝えたいと思っています。私の消防人生の半分は予防業務担当でした。消防職員の多くは現場活動ではない「予防」を嫌がりますが、「予防」こそ災害に対する最前線。ここを消防がやらなくて、どうするんだと思っています。

校) 初任科学生や同僚の教官をどのように思っていますか。

竹) 初任科学生はこの6か月間で見違えるほど成長していきます。その成長していく過程が楽しみです。同僚の教官は前向きで協力的なので、とても良い職場環境です。このような教官の姿を見て、学生が何かを感じ取ってもらえれば良いと思っています。

校) プライベートで何か趣味とかお持ちですか。

竹) 小学校時代からサッカーをしています。やはり仕事と同様に守備より攻撃が好きですね。現在は、地元の少年団で小学生にサッカーを教えています。平日勤務後、土日はサッカーざんまいです。

高倉校長から一言

中央が村松さん→



初任科教育も通常点検が6月24日から校長による点検となり、訓練期間の半分が経過し、日々の訓練内容もより専門的になる中で、学生の皆さんの成長を感じている毎日です。

竹ノ内教官には、赴任早々、制服の着方、礼式作法等について、特訓を受けましたので、私にとっての最初の先生になります。

ご自身がサッカーに打ち込まれ、現在は地元清水町南小のサッカー少年団で20年指導をされているということで、公私共に若者教育に打ち込まれている熱血漢です。当校での訓練後、お一人でランニングに出かけられる姿がストイックで格好いいです。

私も子供がお世話になった静岡城北小のサッカー少年団でコーチを始め、一応、サッカー協会公認の指導員資格も取得して藤枝青島小まで通算10年程コーチ業を務めました。当時の青島小卒業生には元エスパルス河井選手や藤枝東高校のエースとして活躍した志太消防の村松一樹さんがいます。一樹くん、まだ再会は果たせていませんね。

11月にはサッカーW杯の開催が控えています。武器ではなく、スポーツ・サッカーを通じた国間の威信をかけた真剣勝負は素晴らしいと思います。消防やサッカーなど健全な環境で育った若者たちが世界に平和な日常を戻してくれる日がくると嬉しいですね。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索